

Stone Letter Project

圧縮
と
解凍

1 1 2 3 4 5 7 8 9 0 輸出号
1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 月 分号
A B C D E F G H I J K L M N
O P Q R S T U V W X Y Z 号
イロハニホヘトチリヌルオワカヨ
タレソツ子ナラムウ井ノヲクヤマ
ケフコエテアサキユメミシエヒモ
イロハニホヘトチリヌルオワカヨタレ
イロハニホヘトチリヌルオワカヨタレ
ソツ子ナラムウ井ノヲクヤマケフコエ
ソツ子ナラムウ井ノヲクヤマケフコエ
テアサキユメミシエヒモセ寸ソセ寸
テアサキユメミシエヒモセ寸ソソ改正
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R
S T U V W X Y Z 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
S T U V W X Y Z 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 月 分 月 分 月 分

16.3.27 MA

Lighter but Heavier

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

2022年11月19日(土)ー12月11日(日) 11:00ー19:00 (月曜休館) 会場:京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
LbH:片山浩,衣川泰典,坂井淳二,田中栄子 映像協力:林勇氣 主催:京都市立芸術大学

助成:令和3年度京都市立芸術大学特別研究2021-009
令和4年度京都市立芸術大学特別研究2022-010
2021年度-芸術研究重点研究プロジェクト

Stone Letter Project #5 –圧縮と解凍

私たちの周りには印刷物が溢れています。そしてその印刷物のほとんどは、オフセット印刷で刷られています。今日の印刷産業におけるオフセット印刷や版画で使われる金属版は1回限りでその役目を終えますが、オフセット印刷の源流でもある石版印刷では、石版石の表面を研磨すれば何度でも新しい版として使用できます。

1970年頃、日本専売公社京都印刷工場から京都市立芸術大学(以下、京都芸大)にタバコのパッケージ印刷他に使用されていた石版石が移管されました。教育の場での再利用を目的として移管されたこれらの石版石は、いくつかの専攻に分配されましたが、当時は金属版の普及もあって西洋画科の版画制作教室(版画専攻の前身)以外で石版を使用する学生は多くはなく、今熊野校舎、そして1980年のキャンパス移転後には沓掛校舎の倉庫で約40年間保管されたままになっていました。それら倉庫に保管されていた340枚の石版石の調査をきっかけに、本プロジェクトはスタートしました。

保管されていた石版は明治から昭和初期まで実際に使用されていたもので、130年の時を経て明治以来の記憶を留めています。同時に、石版の表面に残されているのは、最後に描画・印刷された図像の痕跡です。その意味でこれらの石版は、印刷産業の歴史の中に何層にも重なったイメージの集積と消去の歴史を語りかける、先人からの手紙のようでもあります。

本展では、340枚の石版石と、それらに残されていた分版^{*1}された図像を当時と同じ方法で紙に刷って記録した印刷物などを展示します。そもそも石は、物質が時間をかけて圧縮されることで生まれます。重い石版を倉庫から一枚一枚運び出し、版面上の硬化したインクを洗い落とし、石版プレス機を使用して紙に印刷する作業はまた、アーカイブ=圧縮された大容量のデータを解凍し、ひもとく作業にも似ています。それは、印刷プロセスに内包される制作者の思考と創造性に再び光を当てることでもあると同時に、沓掛校舎の片隅で倉庫に積み上げられ、イメージと時間を包みこんできた石版という断面を通じて、京都芸大の歴史を違う視点から記録することにもなります。

個人が情報を簡単に入手し、手軽にプリンターで複製出力できる今の時代に、あらためて物質的な質量を伴う石版印刷に実際に触れることは、写真や画像などを記録し生成させる支持体としての「メディア」が、現在でも依然として「物質」であることを再認識させてくれます。当時の印刷産業を牽引した石版の記録／記憶媒体としての強度と性能を実感するとともに、プロジェクトを通して私たちが経験した、過去と現在と未来を往還する体験を多くの人と共有できる展覧会となることを願っています。

Lighter but Heavier

^{*1} 分版:2色以上のインクを使うカラー印刷では、版画の要領で使用するインクの色ごとに分けてフィルムを作ること分版出力、分解出力といひ、分解されたフィルムや版を分版という



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS GALLERY

NEW CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

文化庁
京都へ

関連イベント: 「100年前の石版を刷ろう!」

日時:2022年11月23日(水・祝)~27日(日) 各日13:00~17:00
会場:ギャラリー B(本展览展示室横)

会場内に設置している石版プレス機と、展示している石版を使用して、当時と同じ方法で印刷を体験できるワークショップ+公開制作

Lighter but Heavierと京都芸大版画専攻リトグラフゼミの学生たちが11月23日(水・祝)から27日(日)まで毎日、石版をプレス機で印刷しています。その様子を見学するだけでなく、実際に石版印刷の体験もできます。

京都市立芸術大学所蔵の石版について

京都市立芸術大学校内から発見された石版は、ほとんどが「たばこのパッケージ」に関するものである。石版に彫られたデザインから、大蔵省専売局時代のものを中心に、昭和24年(1949)に日本専売公社が発足してから製造・販売されていたものも含んでいるため、時代的には「たばこ」が専売品となった明治37年(1904)7月1日以降、昭和43年(1968)4月頃まで使用されていたものではないかと思われる。

その根拠は、最も時代の古い「たばこのパッケージ」の石版として、両切の紙巻たばこ「チェリー」(このデザインのパッケージでの販売期間は、明治37年7月1日~明治38年4月16日)が見られ、最も時代の新しいものでは、両切たばこ「いこい」(販売期間が、昭和31年3月26日~昭和43年4月30日のデザイン(なお、「いこい」そのものは、昭和43年5月1日に新しい色のデザインに改訂されて昭和49年4月8日まで発売されている))が見られることによる。また、この一群の石版は様々な経緯を経て京都市立芸術大学に最終的に保管されるに至ったものといっているが、もともとは日本専売公社京都印刷工場に保管されていたものと思われる。日本専売公社京都印刷工場が稼働したのは古く、明治のたばこ民営期(明治元年から専売制



度が施行された明治37年まで、たばこは民間の業者が製造販売していたため、このように呼ばれている)の明治32年(1899)からである。

京都を中心にたばこ製造販売業者として活動していた、村井兄弟商會が設立した東洋印刷株式会社の工場がその前身で、同印刷工場は専売制度が施行された明治37年(1904)7月には国に譲渡され、大蔵省専売局伏見分工場となり、第二次世界大戦後の昭和24年(1949)に日本専売公社が発足すると、同社の京都印刷工場として、たばこのパッケージやポスターの印刷を行っていた。

東洋印刷株式会社を設立した村井兄弟商會の村井吉兵衛(1864~1926)は、東京の岩谷松平(1849~1920)が設立した岩谷商會と並ぶ、明治たばこ民営期の日本を代表するたばこ製造販売業者の一人であった。岩谷商會が主に国産葉を原料とした口付(くつちき)の紙巻たばこを製造販売していたのに対して、村井兄弟商會はアメリカ産の輸入葉を原料とした両切の紙巻たばこを製造販売して販路の拡大を図り、国内市場だけでなく、当時、清国が統治していた中国にも進出するほどの力があった会社であった。

また、村井は「パッケージやポスターの印刷は、商品イメージを左右する大切な要素だ」として、印刷技術の改善に尽力している。もともと村井は、自社製品の印刷を外国の印刷会社に発注していたが、日本が関税自主権を回復すると輸入税が高くなるため、明治32年(1899)にアメリカのステッカー印刷会社と提携して、京都に東洋印刷株式会社を設立。同社の印刷工場では、従来の石版印刷と共にアルミ平板輪転印刷機も導入し、当時の日本では最新の機械と技術を持っていた。

京都市立芸術大学所蔵の石版の中で、確実に村井兄弟商會製のたばこのパッケージであると判定できるものはなかったが、先記のとおり、ほとんどの石版が、同社の印刷工場を引き継いで専売品となった明治37年(1904)7月1日以降、昭和43年(1968)4月頃まで使用されていた「たばこパッケージ」に関するものであり、その中には昭和21年(1946)に自由販売品として発売された「ピース」「コロナ」の2種の石版も見受けられるなど、希少なものも含んでいる。明治時代後期から大正時代、昭和時代中期までに作られ、使用されていたことが確認できる「たばこパッケージ」の石版であるという点で、日本の印刷史上において大変貴重な資料だと言えよう。

谷田有史
たばこ塩の博物館



Lighter but Heavier (LbH)

2016年に片山浩、衣川泰典、坂井淳二、田中栄子で石版やリトグラフに関する検証・調査・研究・展覧会企画などを行うアーティストグループとして結成。

おもな展覧会:

2017年「Stone Letter Project #1 一石からの手紙」Gallery TRI-ANGLE(宝塚大学)／兵庫
2018年「Lighter but Heavierー重くもあり軽くもあるー」KOBE STUDIO Y3／兵庫
2019年「Stone Letter Project #2-Diagrams through the limestones-」ESPAI NAU U Escola (Llotja Sant Andreu)／Barcelona, Facultat de Belles Arts, Universitat de Barcelona／Barcelona
2019年「Stone Letter Project #3-石版工房 Site-specific Lithography-」京都場／京都
2020年「Stone Letter Project #4-The New Stone Age-」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA／愛知

シンポジウム・ワークショップなど:

2017年10月「水と油が仲良く生み出した芸術「リトグラフ」」アワガミプリントラボ／徳島、石版画実演デモンストレーション
2017年11月「石版画シンポジウム#1」宝塚大学／兵庫、出原司+武蔵篤彦+Lighter but Heavier、トークイベント
2018年1月「リトグラフってなに?」KOBE STUDIO Y3／兵庫、江上ゆか+Lighter but Heavier、トークイベント
2018-2019年150周年記念事業「石版画印刷によるタバコのパッケージデザイン復刻プロジェクト」株式会社写真化学／京都・滋賀、技術・制作指導
2018年11月「明治150周年機械館リニューアル記念「石版印刷の実演」博物館明治村／愛知、石版画実演デモンストレーション
2018年12月「はじめてのリトグラフ」兵庫県立美術館アトリエ2／兵庫、アルミニウムリトグラフのワークショップ
2019年2月「不思議な「キッチン・リトグラフ」」伊丹市立美術館／兵庫、キッチンリトグラフのワークショップ
2019年3月「Fragments litográfica」La Maldita Estampa／Barcelona、石版のかけらを用いた石版画ワークショップ
2019年4月「Aplicació d'una imatge Serigráfica a la Litografia」Facultat de Belles Arts, Universitat de Barcelona／Barcelona、スクリーン印刷を石版画へ応用したワークショップ
2019年9月「Stone Letter Project #3」京都場／京都、参加作家+Lighter but Heavier、トークイベント
2020年1月「石版愛:軽くもあり重くもあるーLighter but HeavierのStone Letter Project-」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA／名古屋、倉地比沙支+Lighter but Heavier、トークイベント

HP: <https://lighterbutheavier.strikingly.com>
Facebook: @litholbh
Instagram: @lighterbutheavier
Email: lighterbutheavier@gmail.com



京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1
Phone: 075-253-1509
E-mail: gallery@kcuu.ac.jp
<https://gallery.kcuu.ac.jp>
*京都市バス・京都バス「堀川御池」下車すぐ
*京都市営地下鉄東西線「二条城前」駅下車2番出口より徒歩3分

表紙撮影:岡はるか
デザイン:北原和規 (UMMM)